

## 書評: PROSEA: Plant Resources of South-East Asia.

生物多様性の破壊が社会問題となり、動植物が遺伝子資源として認識されるようになったことを反映して、日本では1989年に『資源植物辞典』(増補改訂版・柴田桂太編・初版発行1949年・北隆館)が再刊され、また同じ年に『世界有用植物事典』(堀田満ほか編・平凡社)が刊行された。動植物を資源として認識し、その有用性を現代的な視点から記述する試みは、過去の事象の解明には直接には役立たないかもしれない。しかし多くの人が食物としてのほかに動植物をじかに利用する機会が少なくなった現代日本では、こうした情報は人間・動植物関係史研究の基礎資料として把握しておくべきものであろう。

ここで紹介するのは東南アジアの植物資源というシリーズで、インドネシアを中心として七カ国の計8機関で構成される国際組織によって編集刊行されている。各巻の構成は共通しており、序論で対象とする植物群を定義してその性質を概観する。各論では主要なものをまず詳細に記載し、つぎにその他のものの簡略な記載があり、最後に副次的に利用されるもののリストが来る。主要林木をあつかう5(1)巻を例にとると、主要樹種の記載は、属にほぼ相当する木材の商品グループごとに、学名、現地名、グループの構成および分布、用途、生産量と国際取引状況、木材の材質、樹木の形態、木材の組織、成長・発達、その他の生物学的情報、生態、林業上の特性、病気、収穫、遺伝資源の保存、将来の見通しを記述し、そのあとに代表的な種の簡単な記載が来る。このように本シリーズの特徴は単に各植物の用途を記述するだけでなく、生物学的な位置づけから栽培特性や生産性、商品としての見通しにまで及んでおり、ひじょうに実学的である。

シリーズ全体の構成は以下のようなものである。

1: Pulses (1989). 105 pp. 乾燥種子が食用となる豆22種を扱う。シリーズ中最初に刊行された。

2: Edible fruits and nuts (1991). 446 pp. 食用果実のうち主要な120種とその他275種。

3: Dye and tannin-producing plants (1991). 195 pp. 染料・タンニン生産のための主要種49種とその他38種、副次的なもののリスト。

4: Forages (1992). 300 pp. 飼料用植物114種とその他のもののリスト。

5(1): Timber trees: Major commercial timbers (1993). 605 pp. 木材生産樹種のうち主要樹種47属550種。

5(2): Timber trees: Minor commercial timbers (1995). 655 pp. 木材生産で次ぎに主要な樹種62属約800種。

5(3): Timber trees: Lesser-known timbers (1998). 859 pp. 従来あまり用いられていない樹種309属約1550種。

6: Rattans (1993). 137 pp. 主要な籐25種と他100種。

7: Bamboos (1995). 189 pp. 主要な竹45種と他30種。

8: Vegetables (1993). 412 pp. 主要な野菜100種とその他125種、および副次的な野菜に野菜とされる800種。

9: Plants yielding non-seed carbohydrates (1996). 237 pp. 豆および穀類以外で種子以外の器官に澱粉あるいは糖を蓄える植物のうち、主要種54種とその他50種、副次的なもの100種。

10: Cereals (1996). 199 pp. 穀物および類似植物 (*Amaranthus*, *Chenopodium*, *Fagopyrum esculentum*, *Zea mays*) のうち主要な20種とその他9種、副次的なもの25種のリスト。

11: Auxiliary plants (1997). 389 pp. 緑陰樹、地表面の保護、緑肥、休閑地植物、生け垣、防風、土壌浸食防止、土壌改良、支え、燃料など、土地利用体系のなかで補助的に用いられる植物を扱う。

12(1): Medicinal and poisonous plants (1999). 711 pp. 主要な薬用および有毒植物330種。

12(2): Medicinal and poisonous plants (刊行予定未定)。

12(3): Medicinal and poisonous plants (刊行予定未定)。

13: Spices (1999). 400 pp. 主要な香辛料となる植物61種とその他65種、副次的なもの150種。

14: Vegetable oils and fats (2001年刊行予定)。

15: Cryptogams (2000年刊行予定)。

16: Stimulants (2000年刊行予定)。

17: Fibre plants (1999年刊行予定)。

18: Plants producing exudates (2000年刊行予定)。

19: Essential-oil plants (1999). 277 pp. 香油生産に用いられる主要38種とその他31種、副次的なもの400種。

各巻で対象とする植物は用途ごとに分けられており、その構成には東南アジア地域の特色がうまく反映されている。各巻のページ数を見れば明らかなように、材木生産のための樹木と薬用・有毒植物が大部を占めている。とくに林木は外貨獲得のための資源として、東南アジアの各国経済にとって重要であり、5(1)巻の序論によると、木材輸出額はインドネシアが33.17億米ドル(1989年)、マレーシアが35.71億米ドル(1992年)に達している。

各巻は、ハードカバーの版、ペーパーバックの版、開発途上国向けの低価格版の3本立てで刊行されている。このプロジェクトの詳細は <http://www.agralin.nl/prosea/index.html> を参照されたい。

(能城修一)